２月継続講座を２月１０日(土)　１３：３０～１５：３０に開催しました。

会　場　　愛知文教大学　２０１教室

テーマ　「通常学級における特別の支援が必要な子どもへの教育支援」

講　師　学び合う学び研究所フェロー　中川　行弘 先生

特別支援についてのセミナーでしたが、このセミナーを受講し、授業ビデオの中に外国にルーツのある生徒がいたことから、「特別支援」という言葉には 2 つの側面があるのではないかと感じました。1 つ目は文字通り、発達障がいなどの心理分野からの側面。2 つ目は外国にルーツがあり、日本語教育などが必要な側面としての「特別支援」。 近年では、外国にルーツがあり、日本語教育が必要な生徒が増えています。そのような生徒でも、「外国にルーツがあることに加えて発達障がいも併せて持っているケース」が顕在化してきたように感じます。 発達支援コーディネーター的な側面の仕事の人も日本語教師資格を取得し、専門性を有しているのが望ましいという時代が到来したのではないかと強く思いました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、つながりを大切にすることです。 本日はありがとうございました。ビデオを通して、子どもたちの様々な姿を見ることができ、いろいろなことを考えさせられました。 特別な支援が必要は子が、教室の中で教師や同級生とつながりをもつことで安心することが分かりました。そのような環境を作っていくことの必要性を感じ、つながりをもつ活動や言葉にする活動を大切にしていきたいと思いました。今後の学校生活に生かしたいと思います。
授業風景のビデオをから、子どもの学び方を見て、学習したことは初めての経験でした。何を学習しているかではなく、どのように学習しているかを知りました。 1 回目の視聴では、授業に真面目に参加していない 3 名の男子児童が気になりました。一人で落書きをしている A、後ろの女子に話しかけている B、音読の際に教科書を持たずに開いたままの C です。しかし、2 回目の視聴では、A に対して、担任の先生は何度も関わっています。鼻水が出た A に対して、先生は何も言わずにちり紙を渡しています。A は、担任の先生を信頼しているようです。学習に不参加なのは、教師の指導を無視しているわけではなく、他に原因があるようです。 グループの話し合いのときに、B は隣の女子児童 D から注意を受けていました。1 回目は、B が気になりましたが、2 回目は必要以上に世話を焼く D が気になりました。彼女の筆箱は、フィギュアのような物がたくさんぶら下がっておりました。D は、学習に真面目に取り組もうとしない B に対して、世話を焼いていますが、D 自身も学習に十分取り組めていません。世話を焼くことで、満足感を得ているのではないだろうかと思いました。 2 回目の視聴では、C は、教科書を両手で持って音読をしていました。しばらくすると、教科書を置いているのです。それまで、数回の音読があったのですが、私が見ていたのは、音読が終わって教科書を置いていた C の姿ばかりだったようです。最後に、中川先生から、C はよくできるとお聞きして、納得しました。 2 回目には、E と F が気になりました。E は、教科書を両手で持って音読をしているようなのですが、視線が教科書に向かっていないのです。口も動いていないので、全く読んでいませ

ん。F は、教師の視界から陰になった開いた教科書の間にずっと落書きをしているのです。みんなの音読が終わった頃、本を置き落書きの後を手で払うようにしていました。

最初に、A,B,C が気になりましたが、本当に注目すべきなのは、D,E,F の子どもたちではないだろうかと思いました。D,E,F は、よく見ないと気が付かない子どもたちだと思います。授業の中の子どもの姿をみることは、難しいことだと思いました。